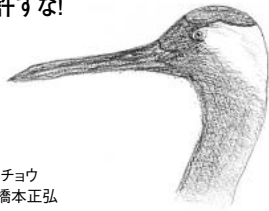


☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



タンチョウ
画:橋本正弘

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120
FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 芹沢 芳郎
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387

寝屋川 廃プラ訴訟 控訴審 棄却 2頁



集会の基調報告で中村 毅氏は、大阪における3つの公害(泉南地域のアスベスト災害、寝屋川廃プラステック工場による健康被害、大気汚染によるぜん息患者)をなくすことと被害者の救済を「地球温暖化防止の取り組みと重ねて、子どもや孫たちに安全・安心し

「安全・人間優先のまちへ転換!いそごう!公害被害者の救済、とめよう!地球の温暖化、まもろう!生物の多様性!」をメインスローガンに1月29日、

第39回公害・環境デー府民集会在エルおおさかで開かれ、48団体157人が参加しました。金谷邦夫実行委員長は「公害・環境問題で大いに語り、周りの人に訴え、共同の輪を広げ、私たちの力で情勢を

第39回公害・環境デー 安全・人間優先のまちへ転換を 「いそごう!」と初の交流会も

て暮らせる環境を手渡すたかいと位置づけて取り組みを進めることが「次の40年を見据えた未来を引き寄せる崇高な活動」だと指摘しました。また、市民ベースでの地球温暖化防止の取り組み、里山や水辺など、生物の多様性を守るため、身近なところから考え行動を起こしていこう、と訴えました。

さらに、大阪府の公害・環境行政が橋下府政のもとで、後退や行政水準の低下を余儀なくされている現状を、環境農林水産研究所の独立行政法人化、財政構造改革プランに示された環境モニタリング予算の縮減計画など具体例をあげて批判しました。

3つの被害者救済運動の報告



と訴えのあと、①猛暑のち寒気団く地球環境を考えるをテーマに岩本智之氏(日本科学者会議)、②大阪府・自治体の「温暖化対策」ヒアリングで見えてきたものと題して、大阪から公害をなくす会・温暖化委員会の重見浩和氏が重点報告。その後各分野・地域から5つのレポート(次頁参照)がありました。

「次の世代に公害・環境問題をどう伝えるか」——この日午前、公害・環境デーの活動をどう未来に継承し活動を発展させるかを考え、若い世代自身が参加する活動につなげようと、交流会が開かれました。

会議では、高校生や大学生を対象に取り組んでいる「公害地域のいまを伝えるスタディツアー」(あおぞら財団)や「環境教育教材による高校における川の水質調査」(港高校)、「地域との連携による環境まちづくり教育」(大阪経済大学)などの実践報告に耳を傾けました。参加者は約50人、公害・環境問題への「出合い」を契機に「気づき」「行動する」若者の存在に確信を深めました。今回の取り組みが、若者の活動の場としての新しい公害・環境デーの発展につながることを期待されます。